

短期間の開発に力を発揮した3Dプリンター



人頭部モデルを作成して細部を検討した

改良を重ねた可動式フェイスシールド。左はカラオケマイクが入るよう成形、右は口元だけでも動く

アフターコロナの新しい文化に見合う 「使いやすいフェイスシールド」を研究・開発。新しい日常に貢献する

自社技術を活かしたフェイスシールドを開発

北海化成工業所は木の製品が当たり前だった除雪具や雪そり、水産養殖資材などを、いち早くプラスチック化に取り組んできた。10年ほど前に先代社長から伊吹敦氏が代表取締役にバトンタッチ。「現場に役に立つ製品」をモットーに、少量多品種のプラスチック製品を受注生産している。

令和2年春。新型コロナウイルスの感染が拡大してきたころ、歯科医師である社長の妹から「医療関係者が必要とするウイルス用の防具がない」という連絡を受けた。防具としてマスクのほかに「フェイスシールド」なるものが注目を集めていた。調べてみると材料はすべて、これまで同社で扱ってきたものばかりであった。そこで同社では、透明フィルムを頭部にスポンジ素材で取り付けゴムバンドで固定する「簡易式フェイスシールド」の開発に着手。初期型の完成品に加え、改良版として、ヘッドギアタイプでシールド面が上下に動く「可動式フェイスシールド」も開発。札幌市からの製造要請を受け、道内医療関係者を中心に約7,500個の納品を完了した。

3Dプリンターの購入でより最適な製品へ

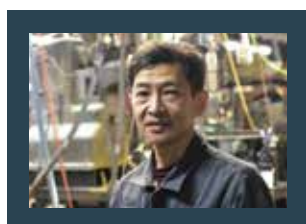
その後、国内の製造メーカーでは3Dプリンターを使用した各種フェイスシールドの開発が相次いでいた。同社では6月に入り、医療機関などに納入してきた実績を元に、使用者へ利用状況や使用感など聞き取り調査を実施。さらなる改善・改良点を見出ししてきた。本事業での助成により、最適な3Dプリンターを購入できたことで、マネキンではない本物の人間の顔をベースに5種類の人頭部モデルを作成。フィット感や機能面などをより一層、スピーディに改良できる製品づくりに役立てることができた。

これまで、医療用・飲食店用などを開発してきたが、今後はウィズコロナ/アフターコロナとして、観光サービス向けや教育機関向けなど、あらゆる用途・機能・美観の最適化を検討。「新しい日常」に対する備えとして、より使いやすいフェイスシールドを製造することに意欲を燃やす。

有限会社 北海化成工業所

プラスチックで「あなたのお好みを形に」を実現する

昭和45年に先代が創業。以来、50年以上にわたってプラスチックを原料に各種製品を成形・加工。プラスチック製品を企画から製造を行う町工場。



代表取締役
伊吹 敦

柔軟な対応、素早い開発

大手企業が量産体制をとった場合には、当社の存在は厳しい状況を迎えることもあるかと思えます。しかし、柔軟な対応のもと、素早い開発を繰り返して、多品種少量生産の強みを活かしていきたいと思っています。

会社情報

設 立 昭和45年10月

従業員数 11名

代 表 者 伊吹 敦

札幌市白石区平和通11丁目
北65番地の2
TEL 011-864-3185
FAX 011-865-2003

<http://plastichkk.xsrv.jp>

